



# 3. 京都の蝶の今昔

越冬中のオオムラサキの幼虫 (2019/3/2 京都市左京区浄土寺大山町) <上西>

内陸から日本海沿岸まで細長く伸びた京都府内には、幅広い環境に様々な蝶が生息している。しかし近年の環境変化によって、京都の蝶類相は変わりつつある。

京都府中北部は冬の降水量が多い日本海型気候であり、標高の低い地域でもブナ・ミズナラ林が分布している。このため様々なゼフィルス(後述)が豊富に生息する。しかし、ゼフィルスの中でもオオミドリシジミやウラナミアカシジミといった里山的な環境に棲む種は、生息環境の減少のためか、近年あまり見られなくなっている。また、中国山地周辺から福知山市付近に分布するヒロオビミドリシジミや、ウラジロミドリシジミといった雑木林を好むゼフィルスも、生息環境の減少に伴って数を減らしているようである<sup>25,26</sup>。ゼフィルス以外では、里山の草地を好むウラナミジャノメや、雑木林に棲むクロヒカゲモドキといったジャノメチョウ類も、生息地を失いつつある<sup>27,28</sup>。また、ササ類を食草とするヒメキマダラヒカゲのように、シカによる下層植生への食害が広がったことで数を減らした種もある<sup>29</sup>。

変化が起きているのは山地の環境だけではない。京都府北部には由良川、南部には淀川水系の河川が流れている。これらの川沿いに広がる草地はかつて草原性の蝶の生息地だったが、こういった環境も近年では失われつつある。木津川沿いや丹波地方の草地で見られたギンイチモンジセセリやヒメヒカゲ、ツマグロキチョウは、いずれも絶滅が危惧されている<sup>30,31,32</sup>。また木津川流域にはオオウラギンヒョウモンが多

産していたが、全国的に数を減らしたのと同時期に、この地域でも見られなくなったという(「6. 危機に瀕する蝶」参照)。

しかし、希少種とされながら生き残っている蝶もいる。2対の尾状突起をもつことで有名なキマダラルリツバメは全国的には珍しい種とされるが、京都府内には安定した発生環境が残っている(「4. アリと共に生きる蝶」参照)。また、「国蝶」と呼ばれるオオムラサキも全国的に激減しているとされるが、京都市内には複数の多産地がある。幼虫の生育環境である、エノキが育つ湿潤な谷が市内に残っているためと推測される。しかし、こういった環境や成虫の餌場となる雑木林が失われれば、オオムラサキの生育にとっては脅威になるであろう。

対照的に、近年よく見られるようになった蝶もいる。南方系の種であるナガサキアゲハやツマグロヒョウモン、クロノマチョウなどは、温暖化に伴って1990-2000年頃から定着したとされている。同じく南方系の種であるイシガケチョウやクロセセリも分布を拡大しているとされ、京大周辺でもたびたび見られる種である。また、植栽植物のユキヤナギやコデマリを餌とするホシミスジも、市街地の食草を利用しながら分布を拡げているようである<sup>33</sup>。<上西>



33  
ヒメキマダラヒカゲ♂



34  
ヒメキマダラヒカゲ♀



35  
イシガケチョウ♂



36  
ホシミスジ♂

**ヒメキマダラヒカゲ *Zophoessa callipteris***

33. ♂ 京都府京都市左京区滝谷山杉峠 (1961/7/18)

34. ♀ 京都府京都市左京区滝谷山杉峠 (1985/7/31)

**イシガケチョウ *Cyrestis thyodamas***

35. ♂ 京都府長岡京市奥海印寺 (2006/6/4)

**ホシミスジ *Neptis pryeri***

36. ♂ 京都府向日市上植野町 (1998/5/10)



37  
クロノマチョウ♂



38  
クロノマチョウ♀



39  
ナガサキアゲハ♀



クロノマチョウ *Melanitis phedima*  
37. ♂ 京都府長岡京市奥海印寺 (1997/11/3)  
38. ♀ 京都府向日市上植野町 (2005/10/31 羽化)

ナガサキアゲハ *Papilio memmon*  
39. ♀ 京都府長岡京市奥海印寺 (1991/5/19)

本章に関連する標本（他章掲載標本を含む）

和名	状況	写真が掲載されている章	写真番号
オオミドリシジミ	↘	5. ゼフィルス	111, 112
ウラナミアカシジミ	↘	5. ゼフィルス	66, 67
ヒロオビミドリシジミ	↘	5. ゼフィルス	123, 126
ウラジロミドリシジミ	↘	5. ゼフィルス	108, 109
ヒメキマダラヒカゲ	↘	3. 本章	33, 34
ヒメヒカゲ	↘	6. 危機に瀕する蝶	150
ツマグロキチョウ	↘	6. 危機に瀕する蝶	166
オオウラギンヒョウモン	↘（府内では 1990 年代以降の確実な記録がない）	6. 危機に瀕する蝶	152, 153
ギフチョウ	↘	2. 日本列島の蝶類相	15
キマダラルリツバメ	↘（府内には安定した発生環境が残っている）	4. アリと共に生きる蝶	46, 47
オオムラサキ	↘（市内には複数の多産地がある）	6. 危機に瀕する蝶	171, 172, 173
ナガサキアゲハ	↗	3. 本章	39
クロノマチョウ	↗	3. 本章	37, 38
イシガケチョウ	↗	3. 本章	35
ホソオチョウ	↗	6. 危機に瀕する蝶	176, 177
ホシミスジ	↗	3. 本章	36

↘: 京都で近年あまり（あるいは全く）見られなくなった蝶、もしくは産地が局地的な蝶

↗: 京都で近年になって見られるようになった（あるいは増えている）蝶

## 京都に縁のある蝶

スギタニルリシジミは、京都市左京区の貴船がタイプ産地である。1918年に旧制第三高等学校の数学教授であり蝶の研究家でもあった杉谷岩彦氏によって貴船で発見され、翌1919年に北海道帝国大学の松村松年氏によって新種記載された<sup>34</sup>。和名および種小名は杉谷氏への献名である。

<伊藤>

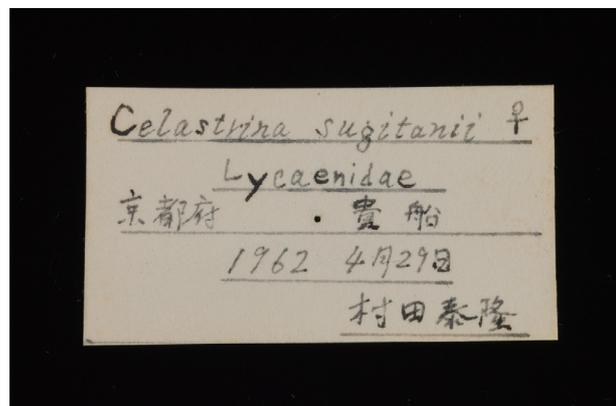


### スギタニルリシジミ

#### *Celastrina sugitanii* (Matsumura, 1919)

40. ♂ 京都府北桑田郡美山町芦生 (1977/4/23)

41. ♀ 京都府京都市左京区貴船 (1962/4/29)



41の標本ラベル。村田氏が中学生の頃に採集したもの。